

## 第39回研究運営委員会 議事概要

(注：本会議は個別具体の研究者や研究課題名に言及した議論が行われることから、非公開で行った。

本会議概要についても、それらが特定されない形での公表とする。)

1 日時：平成22年12月9日(木) 16:00~18:40

2 場所：食品安全委員会22階中会議室

3 出席者(8名)五十音順

圓藤 陽子(独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院  
勤労者医療総合センター・産業中毒センター長)

及川 眞一(日本医科大学内科学内分泌代謝部門教授)

小泉 直子(食品安全委員会委員長)

佐々木珠美(日本生活協同組合連合会食の安全担当テクニカルアドバイザー)

品川 邦汎(岩手大学特認教授)

長尾 拓(食品安全委員会委員)

◎廣瀬 雅雄(食品安全委員会委員)

見上 彪(食品安全委員会委員長代理)

(◎：座長)

4 議題

- (1) 食品の安全性確保のための調査研究の推進の方向性について(案)の検討
- (2) その他

5 議事

- (1) 食品の安全性確保のための調査研究の推進の方向性について(案)の検討

第38回研究運営委員会において検討した「今後推進すべき調査・研究の大枠」の骨子に対する意見を反映し作成した「食品の安全性確保のための調査研究の推進の方向性について(案)」について審議を行った。

検討方法として、各委員からの意見を踏まえた修正点を説明し、妥当性や更なる修正について意見交換を行った。

(主な意見)

○総論について

- ・主な方策で「調査又は研究のいずれかの効果的・効率的な手法を選択する」という表現は、調査と研究を同時に選択できなくなることから、「いずれか」を削除してはどうか。
- ・調査事業の方策について、「分析調査」を追加すべき。

○化学物質的要因について

- ・「ハイリスクグループ」の前に「特定のハザードに対する」を附記し、新しい評価手法の分野へ移動させてはどうか。
- ・「量影響評価及び量反応関係」という表現は、「量影響・量反応関係」としたかどうか。
- ・優先順位は採択実績の有無で検討すべき。

○生物学的要因について

- ・自然毒の例で「シガテラ毒」と具体的に表示されると誤解を招くため、自然毒（海洋性、植物性）としてはどうか。
- ・今後事件が起きる可能性のあるような耐性菌などは、優先順位が上ではないか。

○新しい評価の開発について

- ・「遺伝子改変モデル動物」のみが話題になっており、対象が狭くなっている印象を受ける。
- ・趣旨は理由のみになっているので、最後に「…ため評価が必要である」と追記してはどうか。
- ・新しい定量的評価の開発では、現在の世界的動向を踏まえる必要がある。

○自ら評価等について

- ・自ら評価の事例については、現在、検討している対象ハザードを例にしてはどうか。
- ・今後のハザードではなく、過去に実施したハザードを事例としてはどうか。
- ・「既存の科学的知見」では今後何が起きるか予測できないため、幅広く対応できるよう「必要な情報」としてはどうか。

→以上の意見を踏まえ、「食品の安全性確保のための調査研究の推進の方向性について（案）」を策定し、平成22年12月16日開催の第360回食品安全委員会に報告することとなった。

(2) その他

食品安全確保総合調査及び食品健康影響評価技術研究について、食品健康影響評価等に係る様々な新しい課題に、より適時・適切に対応していけるよう、中期的な展望をもって相互に連携して行うため、委員会の下に調査及び研究について中期的な計画の案の策定及び各年度における実施に係る調整を行う「調査・研究企画調整会議」を新たに設置することとした「調査・研究企画調整会議の設置等について」（案）について、事務局から説明があり、平成22年12月16日開催の第360回食品安全委員会に報告することとなった。

以上。